

2018年11月18日(日曜日)

# 図書館落語会開催報告

～読み聞かせと落語の競演～



今まで図書館では「新春府中寄席」として落語会を開催してまいりましたが、今回初めて、一つの演目を落語と読み聞かせという異なった語りを楽しんでいただく試みを行いました。

聞き比べていただく演目は「初天神」。出店が並ぶ天神様のお詣りで、何かをねだりたい子どもとそうはさせまいとする父親のやりとりが楽しいお話です。

広い会場なので、図書館スタッフによる読み聞かせでは、読み聞かせをするスタッフを中心に、6カ所に分かれて絵本をお見せしました。



読み聞かせは絵本が主人公。絵に集中できるように、語り口もあまり抑揚をつけないことが多いのですが、お話が進んでいくと…お子さんだけでなく大人の方も食い入るように絵本に見入り、父子のやりとりのセリフでは大きな笑い声が上がりました。



続いて、三笑亭可龍さんの落語による、「初天神」。可龍さんは「オチが分かっているから、マイナスからのスタート」とおっしゃいますがなんのその！絵本ですでに聞いていた同じセリフも、落語独特の間合いや表情・しぐさで、まるで目の前で登場人物が動き出しているようです。臨場感のある豊かな表現は観客の心を魅了しました。



さて、休憩後は、三笑亭可龍さんのセレクトによる一席です。語ってくださったのは「金明竹」。この演目にはとてもとても長い、聞き取るのも難しく面白いセリフがあります。それを一気に語り切る可龍さんの妙技に、会場中から笑い拍手が沸き起こりました。

読み聞かせと落語の聞き比べは、とても新鮮で楽しめたというお声をたくさんいただきました。図書館では今後も新しい取り組みを行いたいと思います。

今回、休憩時間やイベント終了後に、会場に展示した図書館の落語絵本を何冊も読み比べるお子さんがいました。

一方で、読み聞かせでお勧めしたい、懐かしい絵本の展示本を手にする大人の方の姿も見かけました。このイベントが、図書館の絵本や読書への興味を広げるきっかけになれば幸いです。